

11月は「いじめ撲滅強調月間」です!

埼玉県では、11月を「いじめ撲滅強調月間」に制定し、いじめの根絶に集中的に取り組んでいます。いじめに遭ったり、気が付いたら、一人で悩まずにご相談ください。

電話相談窓口

- よい子の電話教育相談 (24時間365日対応)
 - ・子ども専用 (18歳以下) ☎0120-86-3192
 - ・保護者専用 ☎048-556-0874
 - ・Eメール相談(子ども、保護者共通) soudan@spec.ed.jp
- 埼玉県警察少年サポートセンター (月～土：午前8時30分～午後5時15分/祝日・年末年始を除く)
 - ・ヤングテレホンコーナー ☎048-861-1152
- 子どもスマイルネット (毎日：午前10時～午後6時/祝日・年末年始を除く) ☎048-822-7007
- 埼玉県のいのちの電話
 - ・相談電話 ☎048-645-4343 (24時間365日対応)
 - ・子どもライン (18歳以下) ☎048-640-6400 (金・土のみ：午後3時～9時30分)
- さいたまチャイルドライン (毎日：午後4時～9時/年末年始を除く)
 - ・子ども専用 (18歳以下) ☎0120-99-7777
- 埼玉県こころの電話 (平日：午前9時～午後5時/土・日・祝日・年末年始を除く) ☎048-723-1447
- 子ども人権110番 (月～金：午前8時30分～午後5時15分/祝日・年末年始を除く) ☎0120-07-110

問合せ 埼玉県県民生活部青少年課

☎048-830-5858

人権作文

「命の大切さ」

皆野小6年

橋本 章吾さん

ぼくは、道徳の時間に余命があとわずかな女の子が亡くなる四ヶ月前に書いた詩に出会いました。その詩は「命」と言う題名です。五年生の時に、この学習をしたことをつい昨日のことのようにおぼえています。命を電池におきかえて、その大切さを表した詩を読んで、なぜかとても感動し、心に残りました。

ぼくは小さいころに、入院したことがあります。悪いきんが体に入り、そのきんがのうに回ると死んでしまうこともあると言う病気があったんだよと母が教えてくれました。小さな病院から、大きな病院に移り入院ちりょうが始まりました。うでに、大きな点てきの管が通り、二十四時間休むことなくこうせい物質を入れ続けました。食事の時も、トイレに行く時ですら管は入

ったままです。そんな時、いつも父や母が支えてくれました。病院にね泊まりしてくれたり、食事を食べさせてくれました。兄や姉も心配してくれました。そんな家族の支えがあったからこそ、ぼくは苦しいちりょうもたえ、元気に退院ができたのだと思います。病院で入院したことを思い出したばに、健康であることのすばらしさを感じます。友達とサッカーをして思い切り走ったり、大好きな物をおいしく食べられたり、大声で笑ったり、音楽を聞いたりすることは、生きているからこそできることだと思います。ニュースや新聞などで、自殺をした人の話を知るたびに、心がいたみます。たった一つの命を、どうして大切にすることができないのだろうかと思っています。自殺してしまう人の中には、いじめられて、追い込まれて、亡くなる小中学生が多いように思います。いじめる人もいじめられる人も、同じ人間なのに、どうして仲良くできないのだろうかと思っています。人は人の、個性があります。それを気にいらなくても、ちゃんと認める気持ちが必要だと思います。また、いじめられていてなやんでいる人も、必ずそのことを誰かに伝える勇氣を持つてほしいと思います。いじめる側が、絶対悪いのです。

命というのは生きている証です。そんな命を殺してはいけません。なぜなら、命はどんな物より価値があり、どんな物より大切だからです。人は、今生きていると言うことがあわせなのです。電池はすぐにとりかえられけど、命はそう簡単にはとりかえられない。

この詩は、「命」の一部です。ぼくもそう思います。この詩の最後は、こう終わっています。

私は命が疲れたと言つまで
せいいつよい生れよう